（第三種郵便物認可）第４４２号（通巻第641号）毎月１回15日発行

今号の記事

私達の声を国会へ届けよう…２面／主張・高齢者大会inおおさか…３面／北から南から…４・５面／みんなの広場…６面／年金者文芸・パズル…７面／わが支部／わが町／旅・たび（輪島能登支部）…８面

年金者しんぶん

第442号　2026年10月15日（木）
（通巻第641号）
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人　岩崎　勇　月刊１部100円（組合費に含む）
昭和57年６月30日第三種郵便物認可
2026.8月　組合員数93,193人　連絡先☎03(5978)2751　FAX03(5978)2777　honbu@nenkinsha-u.org　ホームページ／年金者組合で検索

被災者の困難に心よせ

石川県本部／金沢支部

年金者組合の存在感示す奮闘

全国からも支援　４か年計画の目標達成へ前進



石川県本部の左から藤田敏さん、種池洋さん、小倉恵美さん、浜野猛明さん

４か年計画目標達成率全国一の石川県本部を訪ねました。

石川県本部の「この間」は、震災と豪雨災害を抜きに語れません。藤田敏書記長は、言います。

「私たちは、被災者の困難に寄り添い、生活支援をする中で仲間を増やしてきました。それは、『一人ぼっちの高齢者をなくそう』、とする年金者組合の原点ともいえる活動だったと思います」。

全国からの支援も受け、組織的な活動として何度もボランティアを組み、被災者支援にあたってきました。文字通り、様々な困難を共有し、仲間として声をかけ、加入を呼びかける中で、勝ち取ってきた組織的な前進でした。

◇　◇

「増やしたのは、やはり楽しみ活動とサークル活動」、と言うのは金沢支部事務局長の浜野猛明さんです。

「金沢でも多くの被災された方を迎えましたが、そうした人達は昼間の畑仕事もなくなり要求がたまっています。マージャンや人気のコーラスサークルには話し相手を求めて多くの方が参加してくれました。無料で借りられる施設があったことが大きいです」

◇　◇

藤田書記長は、言います。「いろいろありますが、減るのは仕方がない。亡くなられる方、施設入所される方。だからこそ増やすことを目的意識的に追求しぬくことが大事です。加入者の多くが、うたごえ、食事会、カラオケなどサークルや支部の旅行など楽しい企画に参加することで増えています。金沢支部では、『もう来ないで』（笑）というほど増えている分会もあります。秋の月間目標は35人。難しいですが、頑張れば達成できない数字ではありません。達成し、そして年間を通して前進できる組織にしたい」。記事（宇内敏哲）

根本には、「物価高と生活の困難がある」と強調するのは、小倉恵美県本部委員長です。

「物価高で何をやるにも大変。介護料があがる、いろいろな困難、悩みがある。それに応えるのが仲間づくりです。金沢支部では、年金学習会を繰り返し行っていますが、そうした中で『だから組合員を増やさないと』という自覚がうまれていると実感します」と言います。



昨年の文化祭から

石川県本部／内灘支部



北川進内灘支部長（被災し、本堂がなくなった蓮徳寺前で）

力を合わせて乗り越えよう

1・1地震から2年と300日

がんばろう内灘KSNJ
ネットワークを結成し奮闘

内灘支部は、地域で健康友の会、新日本婦人の会内灘、などとともにネットワークを結成し、ネットニュースを発行して地域の方々を励ましています。ニュースには、被災地の現状や復興・復旧の現状、今後の計画、町長のタウンミーティングの日程などを掲載して、住民のみなさんへ参加を呼びかけています。

記事（宇内敏哲）



工期延期、遅々として進まない学校再開（西荒屋小学校）

風雪

東野圭吾さんの遺作、「永遠の記憶」を読みました。東野さんは、「推理小説を人間性を描く文学」にしたと有名ですが、私も推理、展開はもちろん人間への視点の優しさという点で好きな作家の一人でした▼ただ代表作の直木賞作「容疑者Xの献身」には、「違和感」を感じていました。人一人を「抹消」しながらその人間の存在を一顧だにしない▼本紙で「終活」の連載をした桑原昭子さんは「終活とは、最後まで自分らしく生きること」と述べました▼その思いは同じなのか。「永遠の記憶」で東野さんは、主人公に「その人物はどこの誰で、それまでどうやって生きて来て…、それらを知らないままでは真の解決とはいえない」と言わしめ、今回作で解明しています▼「永遠の記憶」の第2章が、「終活（ふりかえ）る」。人生の最期に代表作の欠缺を補い、まとめ上げた遺作に納得。（U）